

2016年度 後期		リフレクションペーパー					
学科名	生物環境化学科						
科目名	生物学II						
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	1年後期		
必修・選択の別	選択必修						
担当者	神武洋二郎						
授業の到達目標 (シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・細胞が増殖する仕組み、DNAに変異が起きた場合の修復機構について説明できる。</li> <li>・生物がどのようにして個体の数を増やしているのか、モデル生物の発生分化について記述できる。</li> <li>・外部環境から身を守る為の免疫システムについて統合的に説明できる。</li> <li>・精密な生命システムの破綻による疾患について説明できる。</li> <li>・外部環境を認識する感覚器、神経や、内部環境を調節する内分泌系について説明できる。</li> </ul>						
日程と内容	9/15：導入講義、授業の進め方、概要の説明、成績評価法など。 9/29：細胞が増殖する仕組み-DNA複製、細胞周期- 10/6：細胞が増殖する仕組み-細胞周期の調節、DNA変異と修復機構- 10/13：個体を増やす-減数分裂、生殖- 10/20：発生・分化・器官形成-モデル生物を例として- 10/27：外部環境から個体を守る免疫システム(1) 11/10：外部環境から個体を守る免疫システム(2) 11/12：外部環境から個体を守る免疫システム(3) 11/17：中間まとめ 11/24：再生と死-幹細胞の機能とアポトーシス(1) 12/1：再生と死-幹細胞の機能とアポトーシス(2) 12/8：老化 12/15：がん 12/22：生命科学技術 1/12：定期試験 1/19：総合まとめ						
成績評価基準	定期試験	70%	実技				
	臨時試験	30%	部外評価				
	報告書・レポート		プレゼンテーション				
	課題		計	100%			
	演習						
授業到達目標の達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・細胞が増殖する仕組み、DNAに変異が起きた場合の修復機構について説明できる。達成した。</li> <li>・生物がどのようにして個体の数を増やしているのか、モデル生物の発生分化について記述できる。達成した。</li> <li>・外部環境から身を守る為の免疫システムについて統合的に説明できる。達成した。</li> <li>・精密な生命システムの破綻による疾患について説明できる。達成した。</li> <li>・外部環境を認識する感覚器、神経や、内部環境を調節する内分泌系について説明できる。達成した。</li> </ul>						
反省点	総合評価8.9点と、特に不満等のコメントはなかった。より自己学習意欲を向上させるための工夫が必要である。						
来年度の計画	より学生の自己学習意欲を向上させるため、興味を引く最新の生物学の知見を紹介する。						
授業評価アンケートに対するコメント	特に不満等のコメントはなかった。						
履修登録者数	69名	定期試験 受験者数	68名	合格者数	63名	合格率	93%